

1. 自主防災会の必要性

東海地震のような大地震から自分や家族の命を守るためには、さまざまな災害発生に備え、普段から十分な対策を講じておかななくてはなりません。しかし、ひとたび大地震が発生すると、災害の拡大を防ぐためには、個人や家族の力だけでは限界があり、危険や困難を伴う場合があります。このような時、毎日顔を合わせている隣近所の人達が集まって、互いに協力し合いながら、防災活動に組織的に取り組むことが必要です。

災害発生時はもちろん、日ごろから地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織、これが「自主防災会」です。

事 例
平成7年1月に発生した「阪神・淡路大震災」では、道路・鉄道・電気・ガス等都市基盤の崩壊や職員自身の被災から、発災直後は防災関係機関の活動が十分に機能しませんでした。その一方で、隣近所の多くの人が協力し合い、救助活動に参加して尊い命を守った事例や、初期消火を行い延焼を防止した事例などが報告されています。

2. 自主防災会の役割

自主防災会は、地震に限らず台風など大規模な災害が発生した際、地域住民が的確に行動し被害を最小限にするため、日ごろから地域内の安全点検や住民への防災知識の普及・啓発、防災訓練の実施など災害被害に対する備えを行い、また、実際に災害が発生した際には、初期消火活動、被災者の救出・救助、情報の収集や避難所の運営といった活動を行うなど、非常に重要な役割を担っています。

〔自主防災会の活動〕

(1) 平常時

- ① 地域内の安全点検
- ② 防災知識の普及・啓発
- ③ 防災訓練

地域の危険性や家庭内での安全点検及び地域の特性にあった各種の防災訓練を通して、日頃から大規模な災害に備えるための活動です。

(2) 災害時

- ① 初期消火
- ② 救出・救助
- ③ 情報の収集・伝達
- ④ 避難誘導
- ⑤ 避難所の管理・運営

大規模な災害が発生したときに、人命を守り、災害の拡大を防ぐために必要な活動です。

